

隼人族の森を渡る風

創造の現場から 第30回

森の彫刻家 上 床 利 秋

善意の心と自然を愛する心

友達によくアドバイスされることがある。

「すつごじ美人を創つてみたらどうね~」

「そうだねー」

例えば女優のオードリー・ヘップバーンとか吉永小百合、藤圭子など、自分自身がかつて十代だった頃の有名どこの写真をモデルに利用して創つてみるのは楽しいのかな。往年のスターたちを愉しむのもいいのだろう。しかしながら、もはや自分が爺さんになつたせいなのか、好んでそういうテーマで制作する気になれるものではないようだ。現代のAKB48とか若い俳優さんたちになると化粧の仕方が同じに見えて、うら若い人たちを対象に情熱を注いで作品にするには、心ときめくところが面倒くさく思えて、もつと心を揺さぶられる何かを持たなければ難しい。それよりも私には以前から頭像としてずっと貫いていた「人間性をテーマとする作品づくりがやはりいい。あえて新しく上げるとすれば「スーパー・ボランティア」。

読者の皆さんには、ある意味ちょっとがつかりさせたかもしませんね。

この言葉はまるで正倉院のよくな固有名詞として使われているようだ。そつ、行方不明の男の子を短時間で捜し当てた尾畠春男さんのことである。この人のことを聞くにつれ、いつか頭

うようになった。でもきっと本人がそのことを聞いたら「お願いだからやめてください」と嫌がられることだろう

な有名でなくともスーパー・ボランティアな人は見つかることはまずだ。そういう業を感じる人を頭像作品として表現

していきたい。

ボランティアといつ言葉は人によつて解釈が若干違うようだ。ここでは善

意と捉えている。杉アトリエの庭には約250坪の杉林の中にこれまでの私の実験作品や講座生たちの作品を点在

させている。彫刻の面白いところはそれが残骸となつて横たわつても生命感

を失わないことにある。夏場は雑草に埋もれていたものが、冬場には現れて雪帽子をかぶつたりする。アトリ

エに作品を見に来られた人たちの中には、雑草が無い春を迎えてあげたいと、時々ご夫婦で通つて掃除をしてくださる方たちがいる。その気持ち

が嬉しくて、面倒くさがり屋の自分にも、かねてはほつたらかしのアトリエの庭を公園にしようといつ気持ちが強くなってきた。一冬連続で軽ワゴン車いっぱいに薪持つてくださった知人も。花の苗や球根を持ってきてくださった方。そしてご自宅のカーペットが不要になつたからといつ事で移動時に作品を傷つけないようだと、絵手紙を添えてアトリエに置いて行かれた方もいらっしゃる。

像として彫刻作品にしてみたいと思つたからと持つてくださつた紫陽花やイペーの木がいつか花を咲かせてくれるとき、隼人族の森を渡る風がその花びらを爽やかにそよがせてくれることだらう。

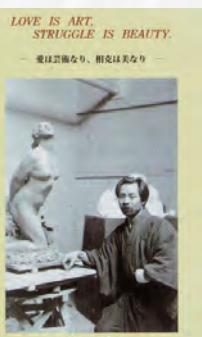
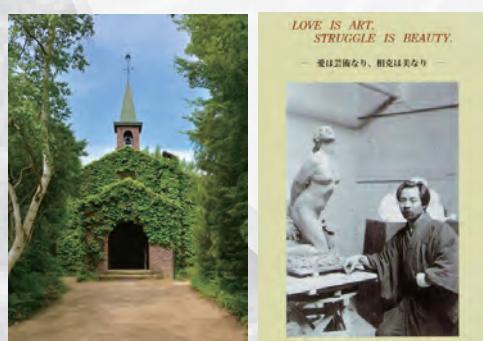
市の協力もあって杉アトリエに降りていく坂道50メートルをアスファルトでいくら坂道50メートルをアスファルトで解釈が若干違うようだ。ここでは善いところが伝へ聞く評判の彫刻を見て、今では毎日観光バスも通う美術館になった。

自然を愛する信州の人々と、隼人族の末裔の人々の心は似てい。

日展会員 第一幼稚教育短期大学 教授



杉アトリエに続くエントランスロードの補修工事
ビフォーアフター。初めての来客者にも親切になつた。



礪山美術館は全国でも珍しい民営の美術館として発足した。美術館建設は、長野県下の全小・中学生をはじめとする29万9100余人の力によって、礪山の生地北アルプスの麓安曇野に誕生した。

よくわかる。そうでなくとも、細心の配慮を施して森を手入れして整備された道路を完備するのもいいものだ。

そうして、自然にも優しいエコカーで彫刻公園になつていつたらしいと思つたからと持つてくださつた紫陽花やイペーの木がいつか花を咲かせてくれたとき、隼人族の森を渡る風がその花びらを爽やかにそよがせてくれる事だらう。

アトリエを行復して芸術活動を展開していく事こそ現代的な文化生活と考えている。

明治のころ信州の荻原守衛という天才彫刻家が若くして病没。作品は石の蔵に遺されて埃をかぶつていたといふ。ところが伝へ聞く評判の彫刻を見て、今では毎日観光バスも通う美術館になった。

上床利秋

ホームページ刷新しました。
<https://douzou.jp/>

このページのバックナンバーも
読むことができます。

